

2022 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [札幌新陽高等学校] 担当教諭名 [熊谷 沙織] (2年3組 30名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SMA Santo Paulus Pontianak] 担当教諭名 [Lenny Lenny]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	地理A	『協働学習から考える私達の世界』	48
	コミュニケーション 英語Ⅱ	国際理解・国際協働	14

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Let's Nurture our Nature for Our Sustainable Life on Lands ～ Speak up and Act! ～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	これから来る自分たちの時代に何を残せるのか。 まずは関心を持って、互いに対話すること。 そしてできることから行動に移すこと。 動物・豊かな自然を次の世代につないでいく気持ちと 生き方の醸成を私達は共にやっていきます！



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に海外生徒と協働するという体験を積んだこと ・自分たちの学習を他者(海外)へ伝えるという経験 ・自分たちのメッセージを壁画に具現化する経験 ・地球市民としての自覚形成 ・多角的な視点・批判的思考の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働する上での言語の壁・相手国との語学力の差 ・より深い視点・思考 ・学んで終わり…ではない継続的な意識を持つこと ・次の学びにつなげていくこと

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ・「遠い国のどこか」の話・机上だけでの学びが、実際の交流を通して、「同じ地球に住む仲間」の問題という「リアル」に変わった。 ・「リアル」になったことで、相手国やSDGsへの関心や興味を掻き立てられていた。 ・言葉の壁を越えよう・伝わる！という自信をつけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で「リアル」な交流が減っていたが、改めて「リアル」な交流はより学習意欲を掻き立てるという理解。 ・インドネシアの教師・生徒の学びの姿勢に感銘を受け、切磋琢磨したいと思った。 ・継続的・つながりを意識した学習設計。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアについて知る ・自己紹介スライド作成 ・相手紹介を読み解く ・日本とインドネシアの違い ・環境問題や生物に関わる課題 ・西岡公園課外学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアに興味を持ち、実際に交流がスタートすることへの期待感。 ・昨年度の学習から今年度の学習へのマインドセット。 ・自分たちに必要な学びについての理解。 	地理A6 コミ英II8
共有 相手と意見交換	7月 ～ 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・西岡公園課外学習をまとめる ・インドネシアとZoom交流 ・インドネシアレクチャー ・ニセコ課外学習(林業体験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことを経験に昇華する。 ・実際に「つながる」という感動を得た生徒が多数。 ・相手を理解するという難しさの痛感。 	地理A22 コミ英II6
融合 メッセージ作成	10月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習成果をインドネシアに伝え、メッセージ作成 →共通点・相違点・解決方法の提案 ・Zoom会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えるという難しさの痛感しつつも、「伝わる」という感動を得た生徒が多数。 ・今までの学習を整理・体系立てることへの難しさを感じていた。 	地理A8
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの具現化・モチーフ決め ・インドネシア生徒が喜ぶ折り紙の作成 ・色塗り 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵で表現するというout putにて普段はおとなしめな絵が得意な生徒が力を発揮することができていた。 ・喜んでもらえる日本文化について考えていた。 	地理A8
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画学校展示に際して、学校への学びの共有 ・インドネシアのお菓子試食 ・今までの振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵が完成して戻ってきたことに対する感動を感じていた生徒多数。 ・異文化に実際に触れる体験に喜んでいた。 	地理A4

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	本校の教育方針も有り、異文化への「拒否感」や「否定」という姿勢は全く見られなかった。比較という学習を通して、自文化を見直すことにもなり、より理解を深めている様子が見られた。
主体的に考え行動する力	4	テーマと課題のみを与え、どのようにまとめるか、どのような観点で体験学習を行うかを生徒に考えさせた。課外学習の設計も生徒たちが行っており、有志が残って壁画制作を進めるなど主体的であったと考える。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	多角的視点を持つことや論理的にまとめるように指示はしていたが、それらの「定着度」や「自分たちのものになっているか、自走できるか」という観点については、もうひと頑張り・・・というのが実情である。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	5	言葉が通じない、国も異なるという中で何とか意思疎通を図ろう、分かってもらおう、分かってくれたい！という言動が多岐にわたって見られた。「リアル」な対話・協働がもたらしたものは非常に大きい。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	1人1人が得意な方法で表現をしようと工夫をしており、全員で決めた下絵を精鋭メンバーが居残って制作を進めるなどしていた。「表現力」という観点では、もうひとクオリティほしかった。